

令和5年度 南房総市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和6年1月22日（月）午後4時00分開会～午後5時06分閉会

2 場 所 南房総市役所本庁舎 2階第2会議室

3 出席者 市長 石井 裕  
教育長 三幣 貞夫  
教育長職務代理者 小宮 忠  
委員 岡崎 俊明  
委員 庄司 美佳  
委員 渡辺 祐子

4 事務局 教育次長 加藤 勉  
参事 国本 和昭  
教育総務課長 井野 秀文  
子ども教育課長 込山 浩司  
生涯学習課長 根形 貴洋  
教育総務課課長補佐兼総務係長 宇山 尚希

5 開 会 加藤教育次長が開会を宣言

6 市長あいさつ

7 協議・調整事項

5時間授業の取り組みについて

・井野教育総務課長が配布資料の概要について説明。

(自由討論)

三幣教育長

補足です。資料2で細かい表がありますが、昨年7月ぐらいから、中央教育審議会の特別部会で授業時数について話があり、学校で行っている授業時数を減らそうというような調査も入っています。全部が可能時数ということで、1,105時間というのがあります。各小中学校で授業ができるか時数が1,105時間ということで、これでも

かなり抑えてある数字ですが、文科省のほうでやらなくてはいけないと考えている授業時数が、1,015時間になります。小学校低学年はまた別ですが、4年生以上中学生までは概ね1,015時間です。実施可能時数が1,105時間ということで南房総市の校長先生は考えているわけですが、これだけでも90時間オーバーしています。全国で調べると、やっぱりこの1,015時間の標準時数を大幅に超えて、1,100何十時間も授業をやっているのが、各小・中学校の実態だというのが、昨年の全国的な調査ででてきました。これを是正しないといけない状況にあるということが一つです。ですから南房総市はかなり時数を抑えてやっています。それともう一つは、9月ぐらいから11人の校長さんが何回も話し合った結果として、夏休みを1週間短くしなくても大丈夫だと、だから6年度は9月1日始まりにしようと、それでも妥協として夏休みの始まりを3日遅くしようということです。7月21日から休みじゃなくて、7月24日から3日間だけ遅くしてやろうということで、今度施行するということですが、11人の校長さんのうち8人が夏休みを通常通り21日からで、9月1日が2学期の始まりで十分に合うと、11人の校長のうち8人がそういう主張です。残り3人の中学校の校長が、時間数が足りなくなるといけないからということで、何回も話し合っただけで妥協したのが、さっき教育総務課長が言った案です。その中で、あんなに体育祭の練習やらなくていいだろうとか、教育委員会にも9月ぐらいから1ヶ月ぐらい太鼓の音が聞こえてきます。体育祭の応援の練習を1ヶ月ぐらいやっていて、そういうものはもうやめるべきだと、それをやめれば十分に合うというような議論もされ、今日の結果となりました。繰り返しになりますが、夏休みを3日遅くしますが、2学期の始まりは今まで通りに戻します。でも多くの校長さんは、今まで通り5時間授業の日を2日作っても、授業時数を必ず確保できるという、そういうようなものは持っています。メリットについては先ほど説明があった通りです。それらを踏まえて、皆さん方からご意見をいただければと思います。

#### 岡崎委員

ちょっとお聞きしたいのですが、多くの校長先生方が今まで通りで実施できるということは、今まではいったいどうだったのかなと思うのですが、やっぱり行事にかかる時間、行事の準備にかかる時間というのは非常に多かったということなのではないでしょうか。

#### 三幣教育長

行事の時間が多いのと、それより教科の時間も多かったです。決められた標準時数以上にやっています。35週で計算していますが、実際の暦はもっとありまして、40週ぐらいありますので、だから5週多くやれば、1週間に5時間・6時間やる授業は、20時から30時間多くなっているということです。

岡崎委員

中央教育審議会では、必要以上に多く授業をやっているということを問題視しているということですか。

三幣教育長

問題視していて、やるなということですよ。

庄司委員

授業の質を高めないと生徒への定着というか、勉強を繰り返し行うとか、先生方は子どもたちが本当に理解しているのかなという不安感で時数が増えているのかなと、私は素人なのでわかりませんが。

岡崎委員

多分そうですね。教員とすると、まだ授業の時間があるから、少しゆっくりやろうとか、少し余裕を持ってやっていくことができると思います。これしかないと思ったら、そのように考えて授業を組むのかと思いますが、文科省がこの時間でやれるというふうにしたわけですから、それでやらなくちゃいけないとは思いますが。

小宮教育長職務代理者

私は考えが違いまして、実際に指導していると、今庄司さんがおっしゃったように、3時間でやらないといけないところを、3時間指導して、何%の子どもたちが理解できるかと考えると、教員が望むほどではなくて、例えば80%ぐらいいけばスムーズかなというところが、50%だったり60%だったりすると、もう1時間丁寧に説明しよう、復習しようというような状態が出てきますので、授業の時間が増えていくというのは、子どもの実態に合わせ膨らんでしまっているのかなと思います。実際に現場にいて一番膨れているのは、さっきから出ている行事、それから特別活動、学級指導、学級活動、細かいのは忘れましたが、これを1時間のうちにやれというようなことになっていきますが、とてもやれるような状況ではないのに、できているということですから、学校は工夫して、朝読書を行ったり、15分ずつに毎週何かを入れたりというようなことを考えてやっています。ですから、さっきから出てくる特別活動だとか、行事を大幅に削減する、あるいは教員の考え方を改めて、発想の転換をしていかないと、なかなか難しいのかなという気がします。ただ5時間授業をやろうというのは大賛成です。

岡崎委員

既に以前はあった大会とか行事が、今はもう学校ではなくなっているという、例えば水泳大会とか、陸上大会とかもなくなっていますか。昔はあったと思いますが。

三幣教育長

ないです。

岡崎委員

そういうのがあれば、そのための準備や練習が学校にも必要になってきますよね。

三幣教育長

それはあんまり授業には関係ないです。5時間授業・6時間授業をやった後の練習時間ですから、教員が拘束される、教員の働く時間が長くなるので、授業の準備だとか、研修だとか、そういう時間は削られていましたが、子どもが授業をやる時間そのものは、水泳大会、陸上大会とかの練習時間では影響はありませんでした。

岡崎委員

教員の負担が軽減されたということですね。

三幣教育長

あとは音楽会とか写生会とか、そういうのがあると作品を仕上げないといけないので、6時間の授業の中にそういうものを入れ込んでいたので、それはかなり食い込んで増えていましたが、校長先生方の多くは、夏休みは普通に実施しても授業を確保できるということなので、来年は3日縮小して、今までの2年間は5日縮小していました。

岡崎委員

私個人的には夏休みはそんなにいらさないから、もう少し学校に行った方がいいのかなと思ったりもしますが、やっぱり学校とすると、教員も含めて負担になりますか。今小宮先生がおっしゃった、授業の時間に少し余裕があった方が内容を濃くできるという、そういった点でも、職員研修とか職員会議とかの回数も問題かなと思います。

庄司委員

お子さんはどうでしょうか。夏休みが25日から始まるっていうのは、ちょっと違和感があって、9月1日からスタートというイメージが自分はずごく強くて、25日と言われると早いなと思うのと、あと子どもたちも9月1日からというイメージが強いのか、もう始業式という感じではありました。

岡崎委員

今回9月1日からになりますが、その始まりを3日縮小して7月24日から夏休みが始まるということですが、その点なんかどうですか。

庄司委員

そっちの方がすごくいいと思います。子どもたちも夏休みが減ったっていうイメージがあんまりないと思います。最初が遅くて2学期の始まりが9月1日となった方がいいと思います。

### 三幣教育長

文科省の偉い方が、私に土曜日に授業やってみてと、月曜から金曜までではやりきれない日課になっているということです。英語が入ってきて、子どもにも教員にも余裕のない日課を組まざるを得ない状況になっています。だから土曜日に授業があれば3時間分浮くでしょうという。月曜から金曜まで余裕ができるという発想ですが、今さら土曜日に授業というのはできないので、そうすると何とか工夫しなくてはいけないという。ただ当初から、夏休みを短くしてもしなくてもできるという、数字上はそういう確信はありました。それで校長会の方に投げたところ、校長さんたちの方が万が一足りなくなるといけないからということで、1週間夏休みを短くしました。2年間やってみて、11人のうち8人の校長は、短くしなくても時数は確保できるという結論が出てきているわけです。ただ中学校の3人の校長さんが、心配だから今まで通りやりたいたいというのがありました。私は標準時数をちゃんとやればいいんだという発想で、夏休みは触らなくても余裕持って5時間授業の日を2日作れっても、十分やっていけると思っています。一番心配なのは、小中学校で校内研修とか、そういうような教員の研修をする時間が、30分埋まっているとできないという、それが5年10年先にダメージになって、学校教育に大きな影響を与えてくるかなと、そっちの方を心配しています。

### 岡崎委員

校内研修っていうのは、月に2日ぐらいやりますか。

### 三幣教育長

高校は1年に1回で、中学校が1ヶ月に1回ぐらい、小学校は毎週1回やっています。

### 渡辺委員

どういうことをやっていますか。

### 三幣教育長

授業研究です。学年ごととか、教科で組むとか、その形は学校によって違います。

### 岡崎委員

基本的に小学校は毎週1回、全員で何か研修するわけではなくて、学年とかで行いますか。

### 三幣教育長

全体でやりますが、具体的には20人30人とかいないと会議にならないから小分けして、いろいろ話し合いができるような人数でグループを作ってやるということで、そこでお互いに指導案を立てて、見合っってそういうようなものを作っています。

岡崎委員

準備するのが大変ですね。

三幣教育長

それが日本の教育を支えていたとされています。

小宮教育長職務代理者

例えば国語と算数と教科を決めて、こちらのグループは国語、こちらは算数のグループと分けて、算数について1年間研究して、グループでの話し合いときには両方集めて、授業をお互いに見てということで、今教育長さんおっしゃったように、指導案を作ってやります。指導主事の訪問があるので、受ける側としては研究授業という感覚で指導主事に見てもらい、小学校ではそのような感じで、中学に行ったときに、研修どうやってやるのかと思っていましたら、各教科の先生方がバラバラですので、教科単位でやろうとすると、一番困るのは各教科1人しかいません。統合前の学校には、各教科が足りないの、極端な言い方をすると、臨時免許を取った先生ともう1人というぐらいで、あるいは全く1人でというような状況で、研修が成り立っていかなかったです。それと今枠がいっぱいですが、例えば先生方が、それぞれの先生がこの時間空いている、この時間空いているってバラバラですので、お互いに研究するというのは難しくなってしまう。ですから例えば5時間授業で、月曜のこの時間はみんな開いていますよということになれば、そこでお互いの研究ができるわけです。

岡崎委員

中学校の場合は、部活動との関係はどうしていますか。5時間授業の日は、生徒は5時間授業が終わってすぐ着替えて部活が始まるのかと思いますが、先生方が職員会議なり研修会となると、どうしてもそちらへ行くので、だから1コマぐらいは子どもたちだけでやるということになりますよね。

三幣教育長

基本的には月曜日が部活動の休みの日で、土日どちらかの1日休みですから、そうすると月曜日が5時間授業だとすると、5時間で授業が終わって、生徒はもうその日は部活がなくて5時間で帰るわけです。例えば金曜日が5時間授業の日で、その日は部活がありますが、5時間やってすぐ部活ですから、そうすると部活の終わりが繰り上がるわけです。それで教員も早く帰るという。その後仕事ができるということになります。

岡崎委員

なるほどそれはいいですね。それはいいですが、本当に部活の時間繰り上がってくるのかな。熱心な練習をするのであれば、もう1時間練習長くできたのになって思っ

てしまいそうです。

三幣教育長

岡崎さんのころは職員の勤務時間って5時まででしたか。

岡崎委員

ちょっと覚えていませんが、5時ぐらいだったかと思います。

三幣教育長

今4時半ですよ。6時間授業が終われば、もうほとんど勤務時間じゃなくなっちゃいますが、そういう現実もあります。

岡崎委員

職員会議も毎月あるいは毎週、特に議題がないのに集まってとかということとはしなくなりましたか。

三幣教育長

だいぶ改善されてきています。

岡崎委員

連絡事項で済むようなことがあれば、共通理解が必要なものは必要でしょうけど。

三幣教育長

心配なのは、教員になってから5年とかその範囲で、指導案を一度も書いたことがないとか、一度も授業を見てもらったことがないとか、そういう人たちが出始めています。物理的に30コマも毎日やっていたら、そういう時間がないわけです。

小宮教育長職務代理者

土曜日に3時間授業があった分が、金曜日までに割り振られたので、3時間分が窮屈になって、土日が休みだけというような状況が、土曜日が削られた点ではありました。土曜日でやっていた分が平日に入ったわけです。でも今更それを変えるのは難しいでしょうから、そうすると枠は決まっているので、中身を考えていかないといけないです。一番はっきり出ているものは何かということ、もう1回再検討していかないといけないのかなという気がします。運動会の総練習をなくしました。そしたら総練習なくてもできました。小学校です。だから、さっきあったように運動会の練習を永遠とやっているのを、そういうふうにとっかで発想を転換すれば、やれないことはないなという気がします。

岡崎委員

確かに総練習とか、何か式典の予行とかって、むしろない方が当日新鮮な気持ちで緊張感とかがあっていいかもしれませんね。トラブルが起こるかもしれませんが、そういう緊張感もありますね。

庄司委員

トラブルもいい思い出ですよ。

小宮教育長職務代理者

今家庭訪問はみんななくなりましたか。

三幣教育長

やっているところもあると思います。家庭訪問はやった方がいいと思います。今の家庭の状況を見ると、やっぱり1回家庭の状況は自分の目で確かめておかないと、やっぱり教員も自分の生活のイメージで子どもを見ていると、いろいろ間違いが出てくるのかなと思います。

岡崎委員

今玄関から部屋まで上がるというのはなかなか難しいですよ。

三幣教育長

部屋には上がれないですが、どういう環境にあるかぐらいは、玄関先でもわかると思います。

岡崎委員

玄関を開けてちょっと見るだけでも、雰囲気とかわかりますよね。

三幣教育長

ちょっとずれちゃうかもしれませんが、部活の練習試合で、明日練習試合に行くから1,500円持ってこいとか、顧問がそういうところ言うわけです。教員の給与というのは割合がいいですから、ただ1,500円っていうのは教員の給与から言うと、大した額じゃないというのはあるわけですが、子どもの方に見てみると、1,500円とか大変な家庭もあるわけです。それを毎週毎週1,500円だとか、あるいは1万円もするスポーツバックを揃えさせるとか、そういう発想は子どもの状況、家庭の状況を見て、変えていかないといけないと思います。

石井市長

家庭訪問のやるやらないは、校長先生の考えですか。

三幣教育長

はい。時数のことを言うともったいないからやめろと、半日を3日しないといけないので、そういうところで持ってかれてしまいます。あとは教員自体が行きたがらないです。令和元年の台風の時も、家庭訪問をして安否確認をしろという指示を出しましたが、中には電波の届くところにいて電話をかけましたと、逆に全部の家を回って、家の状況によっては午後水を届けに行くとか、そういう対応をした職員もいます。

## 岡崎委員

話がずれるかもしれませんが、今お話聞いた部活動については、基本的に教員が休日の部活動指導をしないで、外部委託することになってくると思いますが、教員とすると、部活指導の面では軽減されてすごくいいことだと思いますが、子どもたちにとってみるとどうなのかなと、心配な部分があります。普段月から金まで教わる先生と、また土日教えてくれる外部指導者と、両方指導者がいて、どっちの言うこと聞いたらいいのかなとか、例えばお金の面も含めて、部活によっては差がついてくるのかなと思います。これからの見通しはどうでしょうか。

## 三幣教育長

市長とも相談していかないといけません。例えば富浦中と富山中が統合するとして、部活動がある程度の人数でできますが、それが5年後10年後どうなるかという、また少なくなるわけです。そうなってくると、部活動は学校から切り離して、内房で一つとか、例えば内房で野球部はどこ、剣道はどこというように決めて、学校を越えて地域移行して、地域クラブという形で作っていかないと、構成する人数が揃わないのかなと思います。それともう一つは、例えば内房で野球部を二つ作った場合に、受け皿の人が二つ分確保できるかという問題もあります。剣道で言えば内房で一つというときには、指導者がそこで2人か3人いればいいわけですが、二つ作ると6人必要になるという。それは無理かなと思います。だから地域クラブを作って、中学校の規模がどんなだろうが、内房と外房にスポーツクラブがそれぞれあるというような形にしていかないと、成り立たないのかなという思いは持っています。そうするともう一つの問題が、今まで中学校で部活動を支えていた部分が、中学校からすっぱり抜けるわけです。それをどうやって中学校教育でカバーしていくかです。集団意識でしたが、集団の中でのコミュニティの人間性だとか、そういうものを地域移行したときに、中学校ではもうやらないのか、あるいはそれをカバーするような評価活動をやるのかとか、そういうことも考えていかないといけないなということは考えています。でもいずれにしても、中学校単位の部活動では成り立たなくなっていくと考えています。

## 岡崎委員

学校教育から部活動を切り離すというのは、以前から話題には出ていますが、現実にこんな早く来るとは思っていませんでした。本当に切り離すとすると、今も教育長がおっしゃったように、学校の中でいろんな問題を抱えている子どもたちが、部活の中で活動しながら仲間意識を持ったり、人と向かって取り組んでいったりという、そういう意識ができたものがなくなってしまうと、例えば6時間授業終わったら下校ですと言って、それぞれ地域に行く人もいれば行かない人もいて、どこかへ遊びに行く人もいたり

して、心配な気がします。

三幣教育長

中学校に対する帰属意識みたいなものが薄れちゃうのかなと思います。今までの部活で、富浦地区とかまとまっていたんですが、そういうことがなくなってしまいます。もうなくなっていいというふうを考えなくちゃいけないのか、その辺も検討していかないといけないと思います。

岡崎委員

教員の中には部活指導したいから教員になった方もいるでしょうね。

三幣教育長

それは地域移行した場合に、本人の希望で地域クラブの指導者として登録してやってもらえればいいですね。

岡崎委員

そういう人たちには、地域の登録をしてやってもらうけども、自分が中学校の教員だということも忘れずに、子どもたちの教育は地域移行した子どもたちも見ながらやってくれたらいいですね。そういう面では、移行したときの指導者になった方にも、その辺の意識を持ってやってもらいたいですね。

三幣教育長

地域移行した地域クラブで指導する人たちの研修をかなりやらないといけないのかなと、それが大変かなと思います。

庄司委員

そういう方々も仕事を持っているわけですよ。

三幣教育長

そうですね。

庄司委員

そうすると、かなり大変ですよ。

三幣教育長

あるいは教諭を退職した方がやるとか。

岡崎委員

指導料はまた新たな出費になりますが。

三幣教育長

そうですね。だから3時以降ぐらいから3時間、4時間勤務して、5日ないし6日働いて、それなりの収入になるような指導料を設定しないとイケないのかなという。それじゃないと確保できないのかなという。

岡崎委員

もう期間が迫っていますか。

三幣教育長

国が力をいれなくなっているのので、うちの方は周回遅れでいこうかなと。これだけは最南端は最先端でいかないでいこうと思います。

岡崎委員

当然それが全国的に施行されるようになってくれば、国も賃金とか手当を交付しますかね。

三幣教育長

もう予算措置の話は全く聞こえなくなってきました。

岡崎委員

それもなくてやれというのはなかなかきびしいですね。人を探すだけでは済まなくなりますね。

三幣教育長

当然部活に入らない子も出てくると思います。

岡崎委員

入らない子の中にいろいろと課題を持った方がいるような気がします。

庄司委員

ちょっと話は少しずれるかもしれませんが、施行2年目の良かった点で、漢字検定や英語検定を推奨しており、その検定の勉強に時間を割いているみたいなことが書いてあって、すごく勉強する意欲を感じさせるようで、とてもいいと思います。そこにバウチャー券が今年賃金に関係なくなったということで、バウチャー券を検定料とかに使えたら、今まで全然使っていない方々にもっと使ってもらって、生活保護とか受けてらっしゃるような方々にこそ使ってもらいたいです。そういう場だと思うので、検定とかそういったものを、放課後にみんなで勉強して、点数取れると楽しいみたいな、そういうことをやって、検定をやって、自分が外部から評価されていくという経験があると、ますますやる気が出てきたりすると思います。塾とかに行くのにも、家族の送迎がないといけなくて大変だから、バウチャー券を使ってないのかもしれないですが、学校で授業の一環というか、放課後にそういう教室を作って、検定までみんなで頑張ろうと、盛り上げてやったら楽しいかなと思います。実は私も娘がそういう検定を全然受けてくれなくて、それをやらせるために、お母さんが受けるからと言って、そういうのを受け始めました。自分がやっている姿を見ていると、だんだんと私も受けるよという感じになっていったので、もしかしたら誰かがやっている姿を見たり、そういったのがやる気を出さ

せたりするかなという気がするので、もし可能ならお願いしたいです。

石井市長

込山さん今の大事なことから、使い道をどうするかは検討してください。

込山子ども教育課長

わかりました。

庄司委員

昨年も何かそんなことを思っていたような気がします。

石井市長

やっぱり有効的に使っていただきたいですから。講習だけに限らなくたって別に構わないわけです。

三幣教育長

5時間授業にして余裕を出して、そこで新しいそういうものをやったら、多忙感をまた生み出すだろうというような言われ方をしています。ただ、中学校は小学校と違うから、元々30コマまでやっていたところに、いろいろ補修とかそういうのをやっていたよね。私立は30コマやって、なおかつ土曜日も授業をやっているわけです。だから、中学校でそういう検定とか、そういうものをやらせるようにしていかないと、私立に行ってしまうよね。だから、中学校はまた別かなという。余裕ができた時間で新たな取り組みをさせていくような、そういうものやっていかないといけないという。お金の面に関しては市長もお話していましたので。

庄司委員

地域の人が和田中とかで受験をすると、子どもたちにも何か刺激があって、私がやっていたら友達も私も受けるという漢検を受け始めて、お母さん世代ですが、そういうのもあったので、お金は自分で払いますが、でもそれが子どもに伝播していくこともあるかもしれないです。

渡辺委員

検定のことですが、私も4年生と9年生の子どもがいて、検定のお手紙が来て受けると思うとやっぱり嫌だって、受けないって、私も庄司さんみたく自分がやってそんな姿見せればいいのかと思うのですが、私は英検とか漢検に気持ちが向かなくて、例えば家事検定とか、お片づけ検定とか、いろんな検定があると思いますが、虫検定とか、ただ中学生はやっぱり英検とかが大事だと思いますが、小学生のうちには虫検定、鳥検定とかあれば、親子で取り組めて、検定を受けるとなると勉強しないといけないので、じゃあ何を覚えなくてはいけないのだろうかとか、親子で考えられる機会があれば、その後の算数とか国語に向かう姿勢も変わってくるのかなと思います。何かそういうものがあればなど

思ったことがありました。

庄司委員

やっぱり興味がないと勉強しないといけないですからね。

渡辺委員

興味が向くものが入口としては一番いいかなと思います。

小宮教育長職務代理者

すいません話が違っていいですか。このデータを見ると、学校によって子どもを5時間で終わっても残しておいて活動するところと、5時間で終わったら帰すというところがありますが、その辺は学校独自の考え方で、それなりの目標を持ってやっているから良いという考え方で進んでいるわけですか。

三幣教育長

5時間授業の日でも、スクールバスは繰り上げないよね。今まで通りのスクールバスの運行時間だよ。

宇山教育総務課長補佐

いや、5時間授業に合わせてあります。

三幣教育長

嶺南小は、遅くまで遊んでいるよね。放課後も遊んでいる声が聞こえてきます。

宇山教育総務課長補佐

学校ごとに5時間授業のスクールバスの出発時刻を決めていますので、校庭で遊ばせる学校もあれば、5時間授業で終わらせて家に帰す学校もあります。

三幣教育長

そうだ、習い事があるよね。習い事をやっている子は、5時間で終わってからずっと遊んでいられるから習い事をやるというふうに言っている子も出てきています。そしてスクールバスで帰らないで、習い事をやって終わるまで学校にいられて遊んでいられるから、塾をやるという子も出てきたという話があります。

小宮教育長職務代理者

放課後に何かをやる予定はないという学校と、白浜小学校みたいに和楽器の練習をその時間帯に外部講師でやっている。そうするとその間は外部講師が子どもたちの面倒を見てくれているので、先生方は会議なり、別なことができるというような形になり、それぞれの学校で工夫しているような気がします。

加藤次長

時間も限られておりますので、そろそろ終了させていただきたいと思います。5時間授業の内容につきまして、また何かありましたら、教育委員会の方に問い合わせいただ

ければと思います。それでは、以上で協議調整事項につきましては終わりとさせていただきます。

## 8 閉 会 加藤教育次長が閉会を宣言